

私は、県議を引退します。私に倍するご支援を

しまぶく 恵祐さんへお寄せください

日本共産党

事務所 沖縄市宮里1-14-7
電話 098-989-5320

7月28日、県議をつとめてきましたが、健康上の理由で引退します。これまでのご支援に感謝します。

私に代わり、若い力33歳・しまぶく恵祐さんが県政に挑戦します。ぜひ県政に送っていただきますよう、心から訴えます。

県議 嘉陽宗儀

新基地建設許さぬ力に

私は政治家として、「基地のない平和な沖縄」をめざしてきました。

普天間基地の返還をうたった1996年のSACO合意に、「心より歓迎」と他党派が言っていたとき、私たち日本共産党は「米軍基地の県内たらい回し」と反対を表明し、普天間基地の無条件返還をかけたました。

復帰運動に学んで

私は教員時代、高教組の書記長として、祖国復帰運動や三大選挙に参加。「施政権返還」を実現したとき、「日米両政府の壁は、県民のたたかいで打ち破ることを実感しました。

いま、安倍自公政権は新基地建設工事を強行しましたが、軟弱地盤で行き詰まっています。

「オール沖縄」と県民の共同こそ、新基地建設許さぬ確かな力です。

5年前、知事選に出馬した故翁長雄志さんと二人三脚で、県議補選をたたかったのが、しまぶく恵祐さんです。沖縄市で「オール沖縄」が多数になるかどうかは、しまぶく恵祐さんにかかっています。私に倍するご支援をお寄せください。

無料相談43年、「困っている人を助ける」

私は、1975年、県道20号線のつぶれ地買い上げ問題を解決したのをきっかけに、無料相談をはじめ、79年に無料相談所を開設しました。

あい、命がけで姉妹を取り戻したこともありました。

10人の子を育てた母が原点

「困っている人を助ける」——お金のあるなしに関係なく、困りごと、悩みことの解決にあたり、年間約2千人が相談に訪れていました。東京にあこがれて姉妹2人で上京したが、暴力団に捕り、一人は麻薬関係の仕事に、もう一人はキャバレーで働かされてしまい、連れ戻して欲しいという相談がありました。沖縄から東京の暴力団に直接かけ

私が幼少の頃、父が借金取りに苦しめられ、農薬を飲んで自殺したいと口走ったとき、母が「この子どもたちをどうする。あんたは死にたければ死になさい。どんなことがあっても子どもを育てるから」と喝きました。

10人の子どもを育てた母の姿こそ、困っている人を助ける私の原点かもしれません。

「当たり前事が通る政治を」

いま新型コロナウイルス、消費税10%など政治が社会的に立場の弱い人々に、重くのしかかり、憲法25条の健康で文化的な最低限度の生活を営む権利(生存権)すら、脅かされています。

住民の苦難軽減こそ、日本共産党の立党の精神です。

私のあとつぎしまぶく恵祐さんが、無料相談所を高原に開設しました。「当たり前事が通る政治を」——私の思いを、しっかり引き継いでくれると確信します。

「オール沖縄」へ運動を広げ

その後、名護市への新基地建設の計画が明らかになり、以来、私は辺野古に通い続け、県民の運動を議会内外で激励してきました。

翁長県政実現へ、建白書(オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖撤去、県内移設断念)の立場で、党派をこえて、力をあわせました。「オール沖縄」へと発展し、私は党県議団長として、これを支えてきました。

2020年4月6日号外
発行：日本共産党沖縄県委員会
那覇市泊2-2-407
電話098(98)2020000

日本共産党の見解と県議選の予定候補者を紹介します。